

幹事研修会に参加して

八尾市自治振興委員会会長 福平 武

日時：令和7年9月20日
場所：京都市市民防災センター
参加人数：13名

京都市市民防災センターでの体験プログラムを含めた防災施設での研修を実施しました。一階にある強風体験コーナーでは、風速32メートルの強風下における行動の困難性を習得し、地震体験コーナーでは、震度4～7程度の横揺れを体験し、地震発生時の心構えと日頃の備えの大切さを学び、地震による火災の過半数は電気が原因と言われており、地震の際に自動で電気を遮断できる感震ブレーカーの設置が効果的だと思いました。消火体験では、モニターに模擬火災を映写し、水消火器による強風体験コーナー消火方法を研修参加者が体験しました。

「地下空間への浸水の恐怖」をテーマに4Dシアターシステムで表現し、水害が予測される時の行動については考えさせられました。

水圧扉体験コーナーでは、浸水した際にドアに水圧がかかる、浸水30cmになるとどれだけ開けにくくなるかを体験しました。土砂災害コーナーでは、映像によるリアルさに加え避難所までの間に土砂災害が起こる映像を通して土砂災害の怖さを学びました。そして避難体験では、ホテル火災をリアルに再現し、普段経験できない煙の中の避難行動を体験して、避難するときは背を低くして誘導灯を探し、地震体験コーナーで素早く避難することを学びました。

往復のバスの中、昼食をとりながら地区が抱えている問題への取組みの話等もあり、和やかに一日を過ごしました。今回も参加されなかった幹事さんは、次回参加をお待ちしています。



令和7年度赤十字活動資金及び災害義援金等のお礼とご報告について（令和7年12月18日時点）

寄せられた赤十字活動資金は日本赤十字社が行う地域福祉や災害救護、防災活動に役立てられます。

また、ご協力を頂いた義援金は日本赤十字社を通じて被害状況に応じて按分され、被災地に設置された義援金配分委員会を通じ、全額を被災された皆様にお届けいたします。今後も日赤活動へのご理解とご協力をお願いします。

赤十字活動資金
5,862,473円

義援金、救援金
437,515円

(能登半島地震義援金・ウクライナ人道危機救援金等)

編集委員の紹介

- 委員長：山中あや子（用和地区）
- 副委員長：傍嶋 良享（久宝寺地区） 田中 秀宙（高安西地区）
- 金武 正継（八尾第一地区） 笠谷知枝子（用和地区） 吉井 正博（大正北地区）
- 早川 雪信（西郡地区） 浅井 孝男（南高安地区） 松岡 努（南高安地区）
- 北尾 克巳（南高安地区） 竹本 弘子（赤十字奉仕団婦人部）



第79号

発行
八尾市自治振興委員会
八尾市赤十字奉仕団

八尾市本町1-1-1
八尾市役所コミュニティ政策推進課内
電話072-924-3827(直通)



第75回合同総会を実施しました



令和7年7月23日(木)午後2時から開催されました定期総会は、天候に恵まれ想定していた参加者よりも多くの人に出席して頂きまして、総会を無事に終えることができましたが、近年は参加者数が減少傾向にありますので、28地区の地区委員会に応援していただき八尾市自治振興委員会としても魅力ある委員会にしていきます。

また、委員会が抱えている町会員数の減少問題、未加入者の加入促進、防犯灯の日常管理問題、吊り下げ式広報板の維持管理等を精力的に解決に向けて行動していきますので、ご協力をお願いします。

役員の活性化を図るために85歳での役員退任制度を作り、自治振興委員会として新しい事業に取り組めるように規約の一部を改正しました。

委員会には、組織検討委員会、地区調整・加入促進委員会、財政検討委員会、うるおい広報委員会の4つの委員会があります。

組織検討委員会では、町会の合併、分割等の話し合

がおこなわれており、最近では役員の高齢化が進み町会合併が多くなってきています。財政検討委員会では、自治振興委員会の財政を受け持っていますが、慢性的な財政赤字になっており7年度から地区活動費、町会活動費の単価等の見直しを行いましたので、地区活動にいくらかの影響が出てくる可能性がありますので、支出を抑えるだけでなく収入源の確保を目指します。

地区調整・加入促進委員会では、地区調整委員会に町会加入促進を併設して町会退会、町会員数減少に歯止めをかける検討を今後、積極的におこなっていきます。

うるおい広報委員会では、機関誌「うるおい」を発行するだけでなく、機関誌を活用し委員会がいま取り組んでいる問題等の情報を発信していきます。八尾市自治振興委員会の今後に期待して頂き、頼りがいのある委員会を目指しますので、皆様のご協力をお願い致します。



回覧																			
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

町会に入って良かった!



エピソード 1 大正北地区 吉井 正博

市民スポーツ祭

当初は前日よりの準備が天候により当日の早朝からの準備となりましたが予定の9競技のプログラムを無事午前中に終了することができました。雨がパラパラとありましたが、約370余りの人が集まって楽しんでいただきました。幼児から高齢者の方まで多くのプログラムに参加し、ゴール地点ではお楽しみ商品をゲットしてまた次のプログラムへ足を運んでいました。この商品は地域の各団体からの寄付によるもので全プログラム終了後には全員を対象に抽選会が行われ今話題の「お米」が当たります。参加者はそれを目当てに殆どが最後まで楽しんでいました。この大会は地域の各種団体と青少年指導委員、青年団を中心に運営されています。



しかしここでも「なりて」問題があり以前は午前・午後と実施していましたが、今では午前みの開催となり皆に負担のないように 企画運営されるようになりました。今後の運営を考えていかななくてはなりません。

エピソード 2 大正北地区 吉井 正博

こどもカーニバル

前日の雨の中数張のテントを所定の位置まで設置し翌日に備えました。当日は午前7時に準備がスタート当然雨の中でしたが、開催の11時までに各テントブースの準備が終わり子供たちをまっていました。焼きそばテントでは11時までに数十の焼きそばがパックになり山積みになっていました。又ヨーヨー釣りでは船いっぱい泳いでいます。なかでもこの寒さの中かき氷も予想以上にこどもの手に渡りました。他にはあてものコーナー・むかしあそび・フランクフルト・ミルクせんべいなど夜店の屋台さながらのメニューでたくさんのおともや大人が楽しんでいました。



あるテントでは健康ブースを開き住民と健康について集ってました。体育館ではボーリングあそびで走り回っていたようです。ここでも青少年指導員の皆さんが中心となりまち協の役員と協力して無事午後2時

エピソード 3 八尾第一地区 金武 正継

高美小学校区自主防災組織による防災訓練

令和7年10月26日、高美小学校区まちづくり協議会自主防災組織において、防災訓練を実施しました。本訓練は、地域住民の防災意識向上と災害発生時の迅速かつ確な対応力の強化を目的としています。

安否確認訓練では各家庭に配布された「黄色の無事ですカード」を玄関の見える場所に掲示し、町会の防災担当者が巡回して確認を行いました。

この訓練により、災害発生時における住民の安否状況を迅速に把握する方法の有効性を再確認しました。今後もカードの周知徹底と担当者の巡回体制の強化が必要です。

情報伝達訓練ではトランシーバーを活用し、町会から自主防災組織本部へ様々な情報を報告しました。本部では各町会からの情報を的確に吟味し、状況に応じた対応を判断しました。

必要に応じて市への報告も行い、情報の一元管理と迅速な連携体制の重要性を実感しました。高美中学校体育館では避難所開設訓練を実施しました。避難所の設営や運営に関わる役割分担、物資管理、避難者対応などを実践的に確認しました。避難所運営の課題や改善点を洗い出し、今後の訓練や準備に活かすことが期待されます。

今回の防災訓練を通じて、地域の防災体制の現状を把握し、住民間の連携強化や情報伝達の円滑化が図られました。特に、安否確認カードの活用やトランシーバーによる情報共有は、災害時の初動対応において重要な役割を果たすことが確認できました。



令和7年度市政懇談会

12月18日(木)午後2時30分から開催された市政懇談会のテーマは「特別防犯灯について」を主テーマに防犯灯全体についても可として懇談会に臨みました。

冒頭の挨拶の中で市長から令和8年度から防犯灯事業を八尾市で引き継いでいくために協議中であるとの話もあり、出席者の緊張感も少しはゆるんだようにも見えました。

各地区からの報告の中で通学路に防犯灯の設置、ソーラー充電防犯灯設置、行政で電気料金を持っていただけるなら町会・自治会で担当課に事故・故障

等の連絡をしてもよいとの前向きな発言もあり、そして町会員数の減少に歯止めがかからないなかでの10年を経過したLED照明防犯灯の取替費用負担、町会・自治会員のみが電気料金を負担している不公平感、会員数の減少が続いているなかでの電気料金負担増の不安等があり、令和8年度中に防犯灯事業の八尾市への移管を実現するためにも今後は、詳細にわたり問題点を整理して、各地区の特性をつかみ早期解決に向けて行動を起こしていかないと痛感しました。

